



やぎ少年ジャイルズ・I *Giles Goat-Boy*
(1966) ジョーン・パー
ス (渋谷雄三郎・上村
宗平訳) 国書刊行会
(6/10刊・¥3000)

ジャイルズは、十四歳になるまでヤギの群
れで育てられ、それ故「やぎ少年」と呼ばれ
るようになった。だが、ある日、彼はヤギの
仲間でありつづけることに疑問を感じ、キャ
ンバスを救う。大いなる教え親として、旅
立つことを決意する……。

『酔いどれ草の仲買人』(一九六〇)以来、ほ
ぼ六年間の沈黙の後、出版された長篇が本書
である。舞台になっているキャンバスとは、
もちろん大学のこと。この物語の世界は、す
べてが大学の事物になぞらえられた(それも、
直接のモデルがそれと分かるような)、現代
社会のデフォルメである。だからといって、
風刺ものだと断定できないところが、パース
の複雑さだろう。細かな分類をしようとする
と、手に負えなくなる。しかし、ストーリー
は明確にある。日本のSF界には『吉里吉里
人』をSF大賞に選ぶだけの、度量の広さが
あるのだから、本書も当然SFの領域で読む
ことができるはずだ。

上下二巻に分けられた邦訳のうち、今回は
上巻だけというわけだが、次号では、まとめ
て、もっと詳しく取り上げる予定である。以
上、けいこはーこくそのいち。